

第3回高齢運転者標識の様式に関する検討委員会議事概要

1 日時

平成21年6月2日(火)午後3時～午後4時30分

2 場所

中央合同庁舎2号館18階第4会議室

3 出席者

(1) 委員(五十音順)

浅葉委員、駒場委員、鈴木委員、中谷委員、山村委員

(2) 警察庁出席者

倉田交通企画課長、池田交通安全企画官

4 議事概要

(1) 警察庁説明

警察庁から、高齢運転者標識のデザインに関するアンケート内容及びアンケート集計結果について、資料に沿って説明。

(2) 自由討議

委員から以下の意見が述べられた。

【アンケート結果について】

50～69歳という高齢者予備軍の年齢層にネガティブな感情を持つ方が多い。これは、もみじマークのデザインに対する反発ではなく、年を取ることによってマークを付けなければならないことへの反発ではないか。

問4～問7を見ると、問7の「既存のマークとの混同」については、混同が生じないと言い切れる数値を示している。しかし、その他の回答結果は数値が少ない。6割程度の数値を判断の基準に置くかは微妙なところ。

「全く気に入っていない」に票を入れるというのは相当なもので、それが1割程度いるというのは多い。

もみじマークのデザインを変更するか否かはまだ決まっていないにもかかわらず、デザインを変更することに決まったと思っている方が多い。そのような報道がなされたのかもしれないが、回答ももみじマーク変更を前提としている可能性がある。

制定から11年間経っているとなるとマーク自体もかなり見慣れてきている。

全体の傾向として、高齢者より一般の方がよりネガティブである。しかし、考え方によっては、高齢者の印象がよければ問題ないという発想もある。

「全く気に入っていない」が多い層は、50～69歳と次いで70～74歳であり、50～74歳までが一番ネガティブな印象を抱いている。

従来、75歳以上義務化、70～74歳努力義務となっていたものを、今回の法改正で70歳以上すべて努力義務化したのに、その70～74歳の層の支持が少ないのは懸念すべき事態。

「大変気に入っている」以外の「まあまあ気に入っている」以下の選択肢を選んだ方は、もっといいマークがあればそちらを支持するという事だろう。別のデザインと今のデザインを見比べて、どちらをつけたいかを問うのが健全なのでは。その結果、やはり今までのマークがよかったというのであれば、結論としては納得。

対案を出して、今のもみじマークと代替案とどちらがいいのか国民投票すればとてもセンセーショナルであり、交通安全意識を高める上でも役に立つ。

理念についてももう一度検討した上で、代替案を選定し、そのデザインと現行のもみじマークのどちらがいいか公に問うということでもいいか。

【代替案の基本理念について】

全く新しいマークの場合は基本理念のパブコメをするのもわかるが、今回は既存のものがある状態で基本理念のパブコメをかけるということになる。そうすると、もみじマークは変更するのだという印象を一気に与えることになるのではないか。

変更・存続・初心者マークとの統一など様々議論はあるが、最終的にどうするかは今の段階では決められない。

「仮にマークを作るなら、このようなコンセプトでいいですか。」「仮に新しいマークを作るなら、このデザイン案になるのですが、もみじマークとどちらがいいですか。」「場合によっては初心者マークと統一もあり得るのですが。」といったように、いずれも国民に「仮に」というかたちで聞きながら、決めていくことになるだろう。

いずれにせよ、代替案がなければ始まらない話。

若葉マークとの統一というのは、若葉マークももみじマークもどちらも目的が運転者保護なのであれば、統一してはどうかという議論のことである。

免許を取ったばかりの者の運転と高齢者の運転は特性が異なるのではないか。高齢者は車間距離をあけたがるが、初心者は詰めたがるなど。相手の特性を他のドライバーがわからなければならないので、統一は如何なものかと思う。

まずはあらかじめ国民の皆様にも、代替案を作成することと、代替案ともみじマークを比べてどちらがいいか投票していただくことを予定している旨を明示する、その上で、代替案を作るとした場合、基本理念は以下のとおりであるといったパブコメを行うということでもいいか。

基本理念についての懸念として、理念の中に「親しみ」という文言が入っていると、基本理念だけに留まらず、デザイン自体が少し丸くなってしまう。

基本理念とデザイン自体のテーマを変えてみてもいいのではないか。

現在の基本理念にあるような内容は、審査する側の基準としてあれば足りるもので、公募の際にデザインのコンセプトとして示す必要はない。

パブコメにかけるのはあくまで審査基準であり、デザイン募集の際には別のコンセプトで公募をかけるということか。